



正蔵 山来朝 東西二世競演会



2008年

6月7日【土】

15:00開演 (14:30開場)

茨木市市民総合センター

クリエイトセンター
センターホール

茨木市駅前四丁目6番16号 / 072-624-1726

全席指定

1階席3,000円 / 2階席2,500円

- * 65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者の方は500円引き
- * 茨木市観光協会会員、OSAKAメセナカード会員は10%割引(会員本人のみ、取扱は財団のみ)
- * 就学前のお子様はご遠慮ください
- * 4月7日(月)発売

◆チケットの取り扱い・お問い合わせ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055

(茨木市市民会館1階 8:45~17:15)

◆その他の販売所

JA茨木市本所 072-627-7762

朝日野村北摂販売(株) 072-643-8424

ローソンチケット 0570-000-777

ローソンチケットLコード予約 0570-084-005 (Lコード 59236)

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 385-010)

※ぴあでは割引の取扱いはありません。

【番組】
 解説 / 相羽秋夫
 * 林家 たこ平
 桂 しん吉
 林家 正蔵
 桂 中人
 小米朝
 お囃子 / なにわの会



桂しん吉



林家たこ平

梨園の噺家の競演



相羽秋夫

（演芸評論家
大阪芸術大学教授）

「梨園」とは、歌舞伎役者の社会のことで、唐の玄宗皇帝が梨を植えた庭園で自ら舞楽を教えた故事に依っている。

歌舞伎の世界は世襲制を採っていて、父の看板を息子が継いでいく。そうした歴史が今も連綿と続いている。

落語界は、伝統芸の世界なので、歌舞伎同様に、同じ道を歩む人が多い。

その中でも、東西の落語界で主流を占める一人の、まさに「梨園の噺家」とも言うべき存在の林家正蔵と桂小米朝の凛々しいまでの高座の競演である。

同様の趣旨の企画は、当財団としては、桂春団治と故古今亭志ん朝二人会に次ぐ、二度目の挑戦だ。

偉大な父を持った子供が、栄光とプレッシャーの中で、自らの力を付けていく。その課程は並たいていのものではない。

しかし、そのDNAは確実に開花して、将来大きな存在感を示す。

皆さんは、その萌芽を、今回の二人会の中で見つけて欲しい。

そして、歴史の証言者として、後世に、今日の高座の充実感を語り継いでいてもらいたいとお願いしたい。

まず、故林家三平を父とする林家正蔵からご紹介したい。

三平は「昭和の爆笑王」として知られた。落語家として人気スターの座にいた最初の人と言っても良い。

それだけに、その長男として同じ道を歩むことは大変なことである。

しかも、母の海老名香代子は、エッセイストとして著名、姉のみどりの主人は峰竜太、妹は歌手の泰葉で、その夫君は、つい最近まで春風亭小朝であった。さらには、弟の林家いっ平が追いつてきている。

こういう状況の中で、二〇〇五年三月、それまでのごぶ平という名前を改め九代目正蔵を襲名した。

一九六二年の生まれだから、四十五歳の若さで大名跡を手にした。

この名前は、三平の父、つまり祖父の名前である。三平が自分の芸風から判断して遠慮したこの名を背負って、これから

の道のりは険しくて苦しいであろう。だが、生来の明るさと誰からも愛される性格で、それをねのけてくれるであろう。

桂小米朝はその名前で知れるように、人間国宝桂米朝の、これまた長男である。

一九五八年生まれの小米朝、二十歳の時に落語家になることを決意し、父に入門した。

自らを「モーツァルトの生まれ変わり」と言う。偉大な作曲家モーツァルトとの類似点は、「親父がえらい、親父と同じ職業に就いた、女性好きである、の三点です。」と説明する。

小米朝は、関西学院大学の学生時代から、音楽にもいそしみ、「オペラクゴ」と称する落語と音楽を融合させた分野にも挑戦している。

そんな所から、モーツァルトという名前が浮かび、その共通点が生まれたのだろう。

しかし、この言葉の中に、自分が置かれた立場の全てが象徴されている。

この小米朝、今年十月に京都・南座で五代目桂米団治の、これまた大名跡を襲名する。

この名は父の師匠の名だ。その意味でも、正蔵と全く同じ経過をたどっている。

小米朝も立派にこの大看板をさらに大きくしてくれるに違いない。

この二人に華を添える若手もご紹介しておこう。共々にご声援願いたい。

まず西方の桂しん吉。故桂吉朝門下の入門九年目。三十歳を迎えはり切っている。最近マスコミでの露出度も多くなってきた将来性のある若手である。

もう一人師匠正蔵と西下した林家こ平は、大阪府の出身だが、二〇〇三年に入門し、四年後に二つ目に昇進した。この速さは、いかに注目度が高いかの証拠である。

〈敬称略〉

◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館ユーアイホール1階 8:45~17:15)

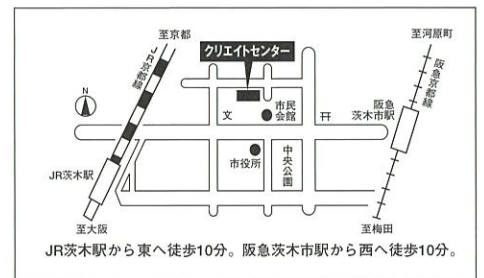
* 発売初日から電話予約もお受けしますがお席はお任せいただきます。

* 予約後は、1週間以内に財団窓口でご精算ください。

* 予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送料300円〉を、郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払い込み確認後の発送となります。

〈振替口座〉00970-7-190576 / 加入者名: 財団法人茨木市文化振興財団

* 窓口販売と電話予約が競合する場合は窓口販売を優先しますので予めご了承ください。



印刷パッケージ材料・シール印刷製品のご用命は当社まで

日栄印刷紙工株式会社

〒567-0878 大阪府茨木市蔵垣内1丁目1番9号

TEL: 072-627-7001(代) / FAX: 072-627-7045